留学レポート

鈴木由佳

・はじめに

2023 年度埼玉県・クイーンズランド州スカラシッププログラムを通し、Yeppoon に派遣されました、鈴木由佳です。本レポートでは留学中の自身の経験や学びを皆さんにお伝えできればと思います。

・Yeppoon での暮らし

ホームステイや高校生活を通して、まず感じたのが「水」に対する意識の違いです。基本的には湯船につかることはなく、シャワーも 10 分程度というルールがありました。トイレに張ってある水の量も少ないため、紙を多く流そうとするとすぐに詰まってしまいます。留学先である Yeppoon State High School(YSHS)の生徒に日本では毎日湯船に浸かるというのを話したところ、とても驚かれ「水の無駄だ。」とまで言われてしまいました。これにはオーストラリアの乾燥した気候による水不足が起因しています。Yeppoon のような海沿いの町でも、ひとたび海から離れると茶色く荒涼とした世界が広がっています。ホストマザーとドライブしていたときに辺りがまるでサバンナのようだったため、「何もないね。」と伝えたことがありましたが、ホストマザーが「この辺りの木は全部パイナップルの木で向こうには紙の材料になるパルプの木があるのよ」と教えてくれました。都会の景色に見慣れてしまい、工場や高層ビルばかりが物を生産する場所だと思っていた私にとって、一見何もないように見えても人々の生活を支えている場所や物があることに気づくことができた思い出深い会話です。また、Yeppoon はパイナップルのキャラクターがいるほどパイナップルが名産で、その甘さに感動しました。ホストマザー曰く、ここのパイナップルと同じくらいの甘さのものは東南アジアの屋台でしか食べたことがないそうです。皆さんも訪れた際はぜひ食べてみてください。

また、ワークスタイルの違いにも驚きました。日本では 24 時間営業のお店もあり休日でも同じように買い物ができる店がほとんどです。しかし、Yeppoon のお店は全体的に閉店時間が早く町で一番大きいショッピングモールも 18：00 にはほとんどの店舗がしまっていました。海沿いに色々なお店が並んでいるのですが、休日はそもそもやっていないか、午前中に閉まってしまうお店ばかりでした。また、石炭が採れる地域が近くにあるためそこで働いている人も多く、そういった人たちは一週間家を離れて働き、終わったら一週間程度家に戻り休むという働き方でした。

そういった働き方が影響しているのか、家族を大切にする人が多い印象を受けました。私のホストファミリーは夜によく電話をしていて、離れて暮らしていてもお互いを気にか

けている様子が伝わりました。留学中には家族のパーティーに２回招待されました。どちらも息子さんの奥さんの妊娠を祝うパーティーで、片方はジェンダーリヴィールという性別発表のパーティーでもう片方はベイビーシャワーという奥さんへのプレゼントのお渡し会でした。飾り付けもかわいらしくて、それぞれが持ち寄ったお菓子もおいしくて華やかでした。人と人とのつながりを大切にするあたたかい空間に参加出来たことは良い経験となりました。

無人販売のパイナップル

ジェンダーリヴィール

・Yeppoon での学校生活

YSHS は日本でいう中学１年生から高校３年生が学ぶハイスクールです。私たちは中学３年生にあたる９年生から高校３年生にあたる１２年生の授業に参加しました。日本との違いを顕著に感じたのは生徒の積極性と教師との距離、授業の内容です。生徒は授業中に分からないことがあれば教師にすぐに聞き、生徒同士で教え合う姿も多く見られました。また、先生方は基本的にポジティブな声掛けをしてくださるので美術や体育など自信がなかった科目でも安心して活動することができました。

生徒との会話で特に印象に残っているのは選挙についての会話です。授業後に一人の女の子が声をかけてくれて自己紹介で 18 歳だと伝えると「なら選挙に行く年齢だね。日本では選挙は義務なの？」と聞かれました。後で調べたところオーストラリアは 18 歳以上の人には投票が義務付けられているそうです。また、年齢を伝えた際によく聞かれたのは運転免許を持っているかどうかです。オーストラリアでは 16 歳から監督者の同伴があれば運転可能で、特に Yeppoon は田舎町なので移動には車が必須です。

YSHS で気に入った授業は English でお題に即して物語を書く、というものです。直接的な表現を避けて気持ちを表現するにはどうしたらよいのかという説明を聞いた後にそれぞれが物語を書き、希望者のものを先生が全員の前で添削します。私の英語のスキルでは満足に書くことはできませんでしたが、他の生徒の表現はとても勉強になりましたし、ネイティブでも文法を間違えることがあるのだから非ネイティブの自分が間違いを恐れる必要などないことに気が付く機会になりました。

・埼玉親善大使として

今回の留学は埼玉親善大使としての活動も兼ねていました。まず、私たちは出発前にプレゼンテーションを用意し、訪問先の３校で発表の機会を頂きました。私が用意したのは「埼玉県の概要」「埼玉県と茶道」「埼玉県のゆるキャラ」の３つのトピックです。「埼玉県と茶道」のプレゼンで小川和紙を使ったお懐紙をプレゼントしたところ、透かし模様がきれいだと喜んでもらえました。日本ではお札にもこの透かし技術が用いられていますが、オーストラリアのお札はそういった加工がされていません。驚いてもらえたのはこのような背景があったからだと思います。狭山茶のティーバッグも好評で、その味わいの深さと甘みを伝えることができました。「埼玉県のゆるキャラ」はゆるキャラとそのキャラクターが持つ地域の特徴をクイズにしました。例えばふっかちゃんなら頭のネギと胸元のチューリップといったようにキャラクターを通してそれぞれの地域が持つ魅力を伝えることができました。

・終わりに

私は中学３年生からコロナと共に学校生活を過ごしてきました。高校生のうちに一度は海外で生活したいという夢がこのような形で叶ったことを心からありがたく思います。初めての海外生活は不安と共に始まりましたが、たくさんの暖かい人々との交流のおかげで終わるころにはYeppoonが離れがたい大好きな場所になっていました。英語が聞き取れなくてもどかしい思いもしましたが、Privateをうまく発音できずにFridayだと勘違いされてしまいホストマザーと大笑いしたり、だんだん会話力が上がっていく実感があったりと言語に対するネガティブな気持ちはいつの間にか軽くなりました。

このプログラムのおかげで、高校生最後の夏休みを日々新鮮な気づきに満ちた素晴らしいものにすることができました。改めて、あたたかく迎え入れてくださったホストファミリー、仲良くしてくれた友人、そして惜しみなくサポートしてくださったYSHSの先生方とクイーンズランド州の方、埼玉県国際課の皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました。

美しく広いYeppoonの空が一番のお気に入りです